

陳 情 文 書 表

(子ども若者はぐくみ局)

受 理 番 号	2 8 6 7	受 理 年 月 日	令 和 4 年 4 月 20 日
件 名	保育料等の値上げの中止等		
要 旨	<p>私たちは である。</p> <p>京都市は2021年8月に、行財政改革計画2021-2025の中で、保育料の改定を挙げていたが、2022年4月の保育所入所申込みが既に始まっている段階での値上げ方針に多くの子育て世帯から不安の声が寄せられたことを受け、2021年11月30日、京都市会本会議において、市長が来年度の保育料値上げを見送るという方針を明らかにした。これについては、2022年4月からの入園を希望している子育て世帯は、仕事や家計の見通しが持て、一安心していることと思う。</p> <p>私たち子育て世帯は、保育料を捻出するために、家族での外出を控えたり、親の小遣いを減らしたり、子供のための支出を減らしたり、貯金ができなかったりなど生活の様々な場面でしわ寄せを受けている。子供を産み、育てることだけでも大変な状況であるのに、更に高額な保育料負担により、深刻な状況にある子育て世帯も少なくない。今後、更に保育料が上がった場合には、次子をもうけるのを諦める、仕事を断念する、あるいは仕事を増やす、京都市から転出するなどの生活における大きな犠牲が生じかねない。</p> <p>京都市は、保育料により生活の仕方に大きな変更を余儀なくされる子育て世帯の声をきちんと聴いてほしい。また、子育て・保育政策に子育て世帯の声が反映される仕組みをきちんと採り入れてほしい。</p> <p>多くの自治体の子育て世帯を呼び込むために、子育て・保育環境を向上させている現状に倣い、今こそ保育・子育て環境を充実させることが喫緊の課題であると言える。</p> <p>ついては、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 京都市は今後、子供の保育に係る保育料や学童保育の利用料、障害児通所支援等に係る利用者負担などの保護者負担を増やさないこと。</li> <li>2 京都市は、保育料については、子育て世帯に及ぼす影響について、調査や計測などに基づく科学的資料を提示したうえで提案を行うこと。また、保育料の決定プロセスには子育て世帯の声を反映する仕組み(意見聴取や議論の場への参加)などを保障すること。</li> </ol>		
陳 情 者			
回付委員会	教育福祉委員会		